

〈研究ノート〉

## 日本語版ECTBを用いた成人看護学実習指導の検討

### －実習指導者と看護学教員の評価から－

Examination of adult nursing practice which used  
Japanese ECTB (Effective Clinical Teaching Behaviors);  
from Clinical nursing practice leader and Teacher of nursing

新井 祐恵<sup>1</sup>, 伊藤 朗子<sup>2</sup>, 山本 純子<sup>3</sup>, 門 千歳<sup>4</sup>, 松田 藤子<sup>5</sup>, 池水 みゆき<sup>6</sup>

#### 要 旨

成人看護学実習指導における実習指導者と看護学教員の役割を検討することを目的に、日本語版ECTBを用いて実習指導者と看護学教員の実習指導評価について調査した。分析対象者は実習指導者39名、看護学教員4名であった。実習指導者と看護学教員との要素別平均値を比較すると、実習指導者では「実践的な指導」「学生への理解」が看護学教員よりも高く、「学習意欲への刺激」「理論的な指導」は看護学教員が高かった。実習指導における役割は、実際の実習指導内容が反映されており明確に意識されていることがわかった。

実習指導者間の指導評価では、「学生に実習をすすめる上での情報提供をしているか」「担当指導教員と良い人間関係を保っているか」の2項目で、臨地実習指導者が実習指導係よりも有意に高かった。看護師経験年数や実習指導経験年数、実習指導対象学生の学年別の違いでは有意差はみられなかった。効果的な実習のためには、実習指導者と看護学教員との連携の必要性が示唆された。

キーワード：日本語版ECTB, 成人看護学実習, 実習指導者, 看護学教員  
Japanese ECTB (Effective Clinical Teaching Behaviors), adult nursing practice,  
Clinical nursing practice leader, Teacher of nursing

#### 諸言

看護師に求められる実践能力を育成するための教育方法には、講義・演習・実習があるが、看護実践能力の育成においては、臨地実習という教育形態が重要な意味を持つ。

臨地実習は、看護職者が行う実践の中に学生が身を置き、看護職者の立場で看護を実践する機会を得る。この一連の過程を通して学生は、看護の方法について「知る」「わかる」段階から「使う」「実践できる」段階に発達させ、看護の方法についても学びを深めていくことが学習の成果として期待され

る<sup>1)</sup>。このように臨地実習は看護を学ぶ上で不可欠な学習過程であるが、在院日数の短縮、患者の重症化などにより学生の受け持ちが可能な患者の選定の困難さに加え、侵襲を伴う看護行為の制約などにより学生が実践できる機会が限定される現状がある。

学生は臨地実習で指導される看護師や教員との相互作用のなかで成長していくものであり、実習の段階により必要とされる指導内容や方法は異なると考えられる。

また看護実践能力を向上させる最も有効な手段は臨地実習である。大学の教員と実習受け入れ先の看護職者は、それぞれ異なる立場と責任を持っている

---

1 Sachie ARAI	千里金蘭大学看護学部	受理日：2013年10月15日
2 Akiko ITO	千里金蘭大学看護学部	
3 Junko YAMAMOTO	千里金蘭大学看護学部	
4 Chitose KADO	一般財団法人 住友病院看護部	
5 Fujiko MATSUDA	一般財団法人 住友病院看護部	
6 Miyuki IKEMIZU	一般財団法人 住友病院看護部	

ため、臨地実習指導体制を構築していくには看護実践能力の育成に向けた共通認識・理解の必要性、それぞれの状況に応じた実習施設との連携を充実させ、看護学教育の基盤を充実させる必要性が課題とされている。

そこで本研究では、成人看護学実習を通した看護学教員と実習施設の実習指導者の臨地実習における自己評価をもとに、臨地実習指導体制を検討することを目的とし、調査した結果を報告する。

## I 目的

本研究の目的は、以下の2点である。

- 1) 成人看護学実習における実習指導者と看護学教員に対して日本語版ECTBを用いて、実習指導評価について調査する。
- 2) 1)の結果から、実習指導者と看護学教員の役割の違いによる効果的な臨地実習指導について検討する。

## II 方法

### 1) 用語の定義

**実習指導者：**成人看護学実習病棟の臨地実習指導者と実習指導係の看護師とする。臨地実習指導者は病棟に1名で、看護学教員との窓口担当であり、病棟における実習調整を行う役割にある。実習指導係は病棟に1～2名配置されているスタッフ看護師とする。

**看護学教員：**成人看護学実習を指導する看護学部教員とする。

### 2) 対象者

看護学部3、4年生の成人看護学実習での実習指導を担当した実習指導者のべ46名、看護学教員6名を対象とした。

### 3) 調査期間

平成24年8月～12月

### 4) 調査方法

無記名式自記式質問紙を用いて実施した。

実習指導者へは病棟師長を通して配布してもらい、郵送にて回収した。看護学教員へは、学内のメールアドレスを用いて、配布・回収を行った。

## 5) 質問項目

対象者の属性として、実習指導者のみ、役職、看護師経験年数、臨地実習指導経験年数、実習指導に関する勉強会への参加の有無を尋ねた。実習指導への評価が高い指導者の行動と学生が指導者に望む行動から、効果的な実習指導行動を評価するために作成されたZimmerman & Westfall<sup>2)</sup>の評価指標をもとに、中西ら<sup>3)</sup>が修正して作成した日本語版ECTBを用いた。

日本語版Effective Clinical Teaching Behaviors (以下ECTBと略す)は実習指導への評価が高い指導者の行動と学生が指導者に望む行動から、効果的な実習指導行動を評価するために作成されたZimmerman & Westfall<sup>2)</sup>の評価指標をもとに、中西ら<sup>3)</sup>が修正して作成した43項目4要素から成る。影本ら<sup>4)</sup>が先行研究の実習指導要素の諸側面を参考に、4つの指導要素「実践的な指導」「理論的な指導」「学習意欲への刺激」「学生への理解」に分類し評価している。

質問項目は、「実践的な指導」6項目、「理論的な指導」7項目、「学習意欲への刺激」13項目、「学生への理解」12項目、その他5項目からなっている。

「1. 全くそうではない」～「5. いつもそうである」の5段階評価とし、点数が高いほどその行動をとる頻度が高いことを意味している。

また日ごろ実習指導に対して感じていることについて自由記述を求めた。

## 6) 分析方法

各質問項目および4つの要素について、記述統計および実習指導者間でt検定を行った。統計処理にはSPSS Ver. 19を使用した。

自由記述については、意味内容の類似性、相違性によりカテゴリーに分類した。

## 7) 倫理的配慮

日本語版ECTBは作成者の許諾を得て使用した。

研究への参加は自由意思に基づくこと、また参加しない場合でも何の不利益も被らないことを紙面および実習担当施設を通して口頭で説明した。回答は個人を特定できないようにデータ化して取り扱うこと、研究以外の目的に使用しないことも併せて説明した。さらにデータの厳重な管理、プライバシーの保護について保障した。なお調査用紙の回収をもって、同意を得られたものとみなした。

なお看護学教員は対象者が少なく、属性により個人が特定されると考えられたため、質問項目のみについて調査した。

本調査は所属大学の研究倫理審査委員会と成人看護学実習病院の倫理審査委員会の承認を得て行った。

### Ⅲ 結果

分析対象者は、実習指導者39名（回収率84.8%、有効回答率100%）、看護学教員4名（回収率67.0%、有効回答率100%）であった。

#### 1. 対象者の属性

実習指導者の役職は臨地実習指導者が14名（36.0%）、臨床指導係看護師が25名（64.0%）であった。看護師の平均経験年数は11.2年（範囲3 - 22年）、実習指導経験年数は平均6.0年（範囲1 - 15年）であった。実習時期による違いは、4年生18名（46.2%）、3年生21名（53.4%）であった。実習指導に関する勉強会への参加経験は51.2%であった。

看護学教員4名はすべて4年生の実習指導時期であった。

#### 2. 日本語版ECTBによる実習指導評価の平均値の比較

##### 1) 実習指導者と看護学教員の要素別平均値の比較

ECTB評価スケールを用いた43項目の実習指導者と看護学教員の要素別の平均値の比較（図1）（表1）、ECTB評価項目の平均値の比較（表2）を示す。

実習指導者の要素別の平均値は「学習意欲への刺激」 $3.98 \pm 0.49$ 、「実践的な指導」 $3.94 \pm 0.48$ 、「理論的な指導」 $3.90 \pm 0.52$ 、「学生への理解」 $3.77 \pm 0.38$ の順であった。

また看護学教員は、「学習意欲への刺激」 $4.12 \pm$

表1 実習指導者と看護学教員の要素別平均値の比較

因子	実習指導者 n=39		看護学教員 n=4	
	平均値	SD	平均値	SD
実践的な指導	3.94	0.48	3.68	0.37
理論的な指導	3.90	0.52	4.04	0.44
学習意欲への刺激	3.98	0.49	4.12	0.40
学生への理解	3.77	0.38	3.63	0.28

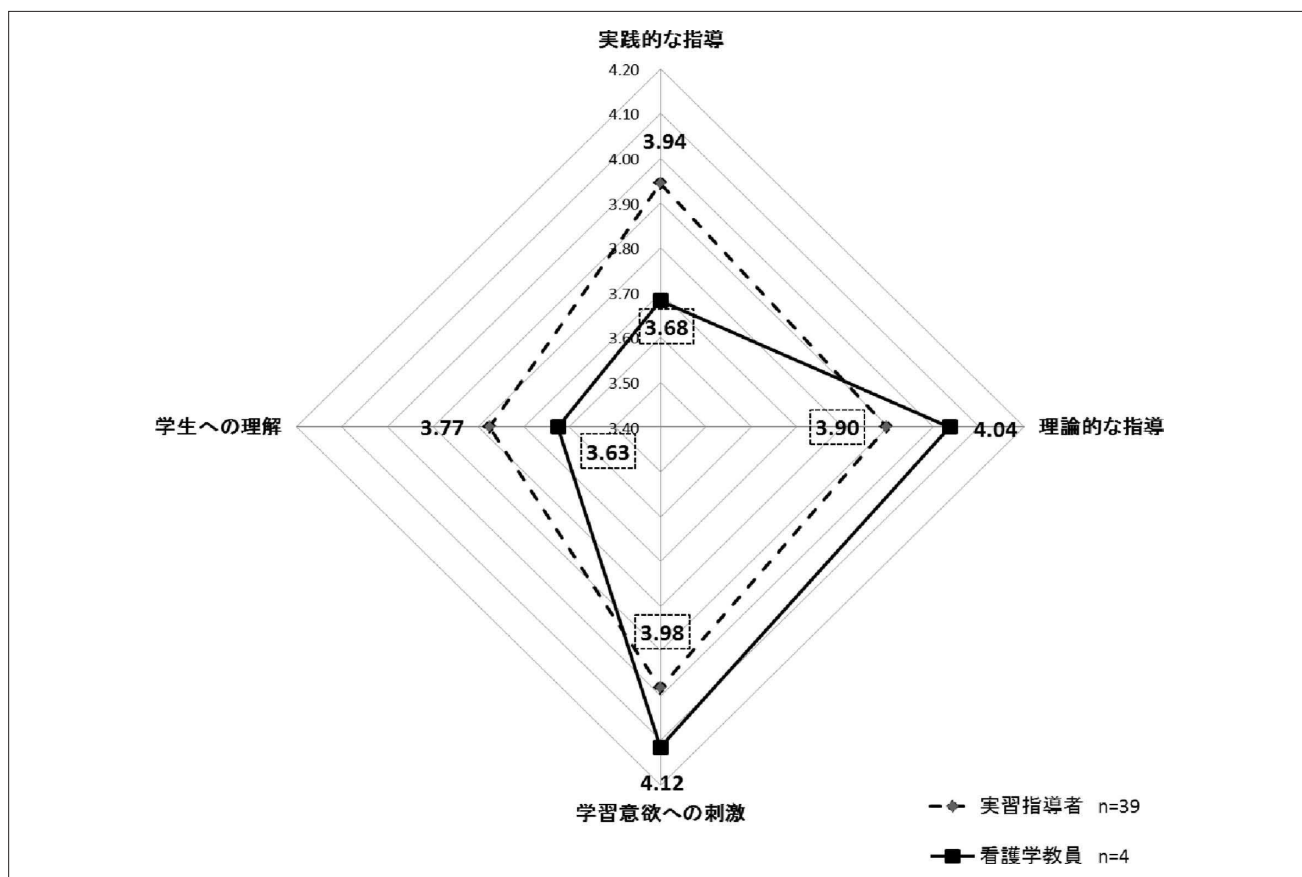


図1 実習指導者と看護学教員の要素別平均値の比較

表2 実習指導者と看護学教員の要素別ECTB評価項目平均値の比較

要素	質問項目	実習指導者 n=39		教員 n=4	
		平均値	SD	平均値	SD
実践的な指導	2. ケアの実施時には、(学生に)基本的な原則を確認していますか？	4.33	0.77	4.25	0.96
	12. 専門的な知識を学生に伝えるようにしていますか？	4.05	0.72	3.75	1.26
	16. 学生に対して看護者として良いモデルになっていますか？	3.87	0.61	3.25	0.50
	21. 理論的内容や、既習の知識・技術などを実際に臨床の場で適用してみるように働きかけていますか？	3.79	0.70	3.75	0.50
	25. 記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えていますか？	3.38	1.07	3.35	0.47
	31. 必要と考えるときには、看護援助行動のお手本を学生に示していますか？	4.23	0.58	3.75	0.96
理論的な指導	5. 学生に対し客観的な判断をしていますか？	4.16	0.74	3.50	1.00
	6. 看護専門職としての責任を学生が理解するように働きかけていますか？	4.23	0.74	4.25	0.50
	7. 学生の不足なところや欠点を、学生が適切に改善できるように働きかけていますか？	4.08	0.58	4.00	0.00
	14. 学生が、学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援していますか？	4.05	0.60	4.50	0.58
	19. より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っていますか？	3.54	0.91	4.00	1.41
学習意欲への刺激	20. 学生に事柄を評価しながら考えてみるように言っていますか？	3.79	0.77	4.00	0.82
	24. 記録物の内容について適切なアドバイスをしていますか？	3.44	0.99	4.00	0.00
	8. カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導していますか？	4.18	0.56	4.00	0.82
	15. 学生が“看護は興味深い”と思えるような姿勢で仕事していますか？	3.97	0.71	4.25	0.50
	18. 学生が実施してよい範囲・事柄を、実習の過程に応じて明確に示していますか？	4.05	0.69	4.50	0.58
	23. 学生がより高いレベルに到達できるような対応をしていますか？	3.82	0.76	4.00	1.16
	27. 学生が新しい体験ができるような機会をつくって作っていますか？	3.92	0.70	3.75	0.50
	30. 実習グループの中で、学生が互いに刺激しあって向上できるように働きかけていますか？	3.49	0.97	4.00	0.82
	33. 学生が新しい状況や、今までと異なった状況に遭遇した時は方向づけをしていますか？	4.13	0.66	4.25	0.50
	35. 学生自身が自己評価をできやすくするように働きかけていますか？	4.00	0.56	4.25	0.96
	37. 学生が何か選択に迷っている時、選択できるように援助していますか？	4.13	0.52	4.25	0.50
	38. 学生により刺激となるような話題を投げかけていますか？	3.77	0.81	3.75	0.50
	学生への理解	41. 学生がうまくいかなかった時、そのことを学生自身が認めることができるように働きかけていますか？	3.92	0.58	4.00
42. 学生の受け持ち患者様と、その患者様へのケアに関心を示していますか？		4.26	0.64	4.75	0.50
43. 学生が学習目標を達成するために、適切な経験ができるように援助していますか？		4.13	0.57	3.75	0.50
4. 学生に対して裏表なく素直ですか？		4.44	0.55	4.50	0.57
9. 学生に対し思いやりのある姿勢でかかわっていますか？		4.44	0.55	4.00	0.82
10. 学生がうまくやれた時には、そのことを伝えていますか？		4.26	0.59	4.25	0.50
11. 学生が緊張している時には、リラックスさせるようにしていますか？		4.15	0.59	4.25	0.50
13. 学生同士で自由な討議討論ができるようにしていますか？		3.84	0.74	4.25	0.50
17. 学生が気軽に質問できるような雰囲気をつくっていますか？		3.97	0.58	4.00	0.00
22. 学生に対する要求は、学生のレベルで無理のない要求ですか？		4.21	0.52	3.50	0.58
要素外の項目	26. 学生一人一人と、良い人間関係をとるようにしていますか？	3.95	0.65	4.00	0.82
	28. 物事に対して柔軟に対応していますか？	4.15	0.59	4.25	0.96
	34. 学生のいうことを受け止めていますか？	4.15	0.71	4.00	0.82
	39. 指導の方法は統一していますか？	4.00	0.69	3.50	1.30
	40. 学生に対し忍耐強い態度で接していますか？	4.10	0.72	3.25	0.96
	1. 学生に実習をすすめる上での情報を提供していますか？	4.64	0.54	4.66	0.47
	3. 学生のグループカンファレンスや計画の発表に、適切に助言していますか？	4.10	0.72	3.75	0.96
	29. 実習の展開過程において、適切なアドバイスをしていますか？	3.95	0.60	3.50	1.00
32. 患者様と良い人間関係をとっていますか？	4.39	0.54	4.50	1.00	
36. 担当指導教員と良い人間関係を保っていますか？	4.26	0.82	4.50	0.58	



## 日本語版ECTBによる実習指導役割の検討

表3 実習指導者の実習指導対象学年と役職の違いによるECTB評価平均値の比較

質問項目	実習指導学生				役職				
	4年生対象 n=18		3年生対象 n=21		臨床実習指導者 n=14		実習指導係 n=25		
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	
1. 学生に実習をすすめる上での情報を提供していますか？	4.67	0.49	4.62	0.59	5.00	0.00	4.44	0.58	*
2. ケアの実施時には、(学生に)基本的な原則を確認していますか？	4.28	0.83	4.38	0.74	4.29	0.83	4.36	0.76	
3. 学生のグループカンファレンスや計画の発表に、適切に助言していますか？	4.11	0.76	4.10	0.70	4.36	0.74	3.96	0.68	
4. 学生に対して裏表なく素直ですか？	4.44	0.51	4.43	0.60	4.64	0.50	4.32	0.56	
5. 学生に対し客観的な判断をしていますか？	4.11	0.76	4.20	0.75	4.14	1.03	4.16	0.55	
6. 看護専門職としての責任を学生が理解するように働きかけていますか？	4.17	0.79	4.29	0.72	4.07	0.83	4.32	0.69	
7. 学生の不足なところや欠点を、学生が適切に改善できるように働きかけていますか？	3.94	0.64	4.19	0.51	3.79	0.43	4.24	0.60	
8. カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導していますか？	4.28	0.46	4.10	0.62	4.29	0.61	4.13	0.53	
9. 学生に対し思いやりのある姿勢でかかわっていますか？	4.28	0.57	4.19	0.60	4.14	0.53	4.28	0.61	
10. 学生がうまくやれた時には、そのことを伝えていますか？	4.17	0.51	4.33	0.66	4.21	0.58	4.28	0.61	
11. 学生が緊張している時には、リラックスさせるようにしていますか？	4.28	0.46	4.05	0.67	4.21	0.43	4.12	0.67	
12. 専門的な知識を学生に伝えるようにしていますか？	4.00	0.69	4.10	0.77	4.00	0.68	4.08	0.76	
13. 学生同士で自由な討議討論ができるようにしていますか？	3.88	0.83	3.80	0.68	4.14	0.86	3.67	0.62	
14. 学生が、学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援していますか？	4.06	0.64	4.05	0.59	4.07	0.62	4.04	0.61	
15. 学生が“看護は興味深い”と思えるような姿勢で仕事していますか？	3.94	0.73	4.00	0.71	3.71	0.83	4.12	0.60	
16. 学生に対して看護者として良いモデルになっていますか？	3.89	0.58	3.86	0.65	3.86	0.53	3.88	0.67	
17. 学生が気軽に質問できるような雰囲気をつくっていますか？	4.06	0.54	3.90	0.62	3.93	0.62	4.00	0.58	
18. 学生が実施してよい範囲・事柄を、実習の過程に応じて明確に示していますか？	3.94	0.73	4.14	0.65	4.14	0.53	4.00	0.76	
19. より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っていますか？	3.33	0.84	3.71	0.96	3.36	0.93	3.64	0.91	
20. 学生に事柄を評価しながら考えてみるように言っていますか？	3.78	0.65	3.81	0.87	3.71	0.73	3.84	0.80	
21. 理論的内容や、既習の知識・技術などを実際に臨床の場で適用してみるように働きかけていますか？	3.61	0.70	3.95	0.67	3.64	0.74	3.88	0.67	
22. 学生に対する要求は、学生のレベルで無理のない要求ですか？	4.17	0.51	4.24	0.54	4.29	0.47	4.16	0.55	
23. 学生がより高いレベルに到達できるような対応をしていますか？	3.89	0.68	3.76	0.83	3.50	0.76	4.00	0.71	
24. 記録物の内容について適切なアドバイスをしていますか？	3.22	1.06	3.62	0.92	3.36	0.84	3.48	1.08	
25. 記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行っていますか？	3.11	1.18	3.62	0.92	3.21	1.05	3.48	1.08	
26. 学生一人一人と、良い人間関係をとるようにしていますか？	4.00	0.69	3.90	0.62	4.00	0.55	3.92	0.70	
27. 学生が新しい体験ができるような機会をつくっていますか？	3.89	0.58	3.95	0.80	3.71	0.83	4.04	0.61	
28. 物事に対して柔軟に対応していますか？	4.17	0.51	4.14	0.65	4.14	0.36	4.16	0.69	
29. 実習の展開過程において、適切なアドバイスをしていますか？	4.00	0.59	3.90	0.62	4.07	0.62	3.88	0.60	
30. 実習グループの中で、学生が互いに刺激あって向上できるように働きかけていますか？	3.50	0.92	3.48	1.03	3.79	0.58	3.32	1.11	
31. 必要と考えるときには、看護援助行動のお手本を学生に示していますか？	4.11	0.58	4.33	0.58	4.36	0.50	4.16	0.62	
32. 患者様と良い人間関係をとっていますか？	4.44	0.51	4.35	0.57	4.50	0.52	4.34	0.55	
33. 学生が新しい状況や、今までと異なった状況に遭遇した時は方向づけをしていますか？	4.00	0.59	4.24	0.70	4.14	0.53	4.12	0.73	
34. 学生のいうことを受け止めていますか？	4.00	0.69	4.29	0.72	4.14	0.77	4.16	0.69	
35. 学生自身が自己評価をできやすくするように働きかけていますか？	3.89	0.58	4.10	0.54	3.86	0.36	4.08	0.64	
36. 担当指導教員と良い人間関係を保っていますか？	4.39	0.61	4.14	0.96	4.79	0.43	3.96	0.84	**
37. 学生が何か選択に迷っている時、選択できるように援助していますか？	4.17	0.51	4.10	0.54	4.21	0.43	4.08	0.57	
38. 学生により刺激となるような話題を投げかけていますか？	3.56	0.92	3.95	0.67	3.71	0.91	3.80	0.76	
39. 指導の方法は統一していますか？	4.06	0.64	3.95	0.74	4.07	0.62	3.96	0.73	
40. 学生に対し忍耐強い態度で接していますか？	4.11	0.76	4.10	0.70	4.07	0.73	4.12	0.73	
41. 学生がうまくいかなかった時、そのことを学生自身が認めることができるように働きかけていますか？	3.89	0.58	3.95	0.59	3.79	0.43	4.00	0.65	
42. 学生の受け持ち患者様と、その患者様へのケアに関心を示していますか？	4.28	0.46	4.24	0.77	4.50	0.52	4.12	0.67	
43. 学生が学習目標を達成するために、適切な経験ができるように援助していますか？	4.17	0.51	4.10	0.62	4.21	0.58	4.08	0.57	

\*p&lt;0.05 \*\*p&lt;0.01

0.40、「理論的な指導」 $4.04 \pm 0.44$ 、「実践的な指導」 $3.68 \pm 0.37$ 、「学生への理解」 $3.63 \pm 0.28$ の順であった。

実習指導者と看護学教員の要素別の平均値を比較すると、実習指導者が看護学教員よりも「実践的な指導」「学生への理解」が高かった。特に「実践的な指導」の実習指導評価項目すべてにおいて実習指導者の平均値が高かった。「学生への理解」での評価項目では、実習指導者が「9. 学生に対し思いやりのある姿勢でかかわっていますか?」「22. 学生に対する要求は、学生のレベルで無理ない要求ですか?」「39. 指導の方法は統一していますか?」「40. 学生に対し忍耐強い態度で接していますか?」の4項目が特に高い傾向が見られた。逆に看護学教員が高い傾向にあったのは、「13. 学生同士で自由な討議討論ができるようにしていますか?」であった。

平均値が実習指導者よりも看護学教員が高かった要素は、「学習意欲への刺激」「理論的な指導」であった。

「学習意欲への刺激」の看護学教員が高い傾向にあった実習評価項目は、「18. 学生が実施してよい範囲・事柄を、実習の過程に応じて明確に示していますか?」「30. 実習グループの中で、学生が互いに刺激しあって向上できるように働きかけていますか?」「42. 学生の受け持ち患者様と、その患者様へのケアに関心を示していますか?」の3項目であった。逆に実習指導者が高い傾向にあったのは、「8. カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導していますか?」「27. 学生が新しい体験ができるような機会をつくっていますか?」「43. 学生が学習目標を達成するために、適切な経験ができるように援助していますか?」の3項目であった。

「理論的な指導」では、看護学教員が高い傾向にあった項目は、「14. 学生が、学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援していますか?」「19. より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っていますか?」「20. 学生に事柄を評価しながら考えてみるように言っていますか?」「24. 記録物の内容について適切なアドバイスをしていますか?」の4項目であった。「5. 学生に対して客観的な判断をしていますか?」は実習指導者の方が高い傾向にあった。

## 2) 実習指導者間の比較

日本語版ECTB評価スケールを用いた43項目の実習指導者の指導対象学年別と役職別の平均値の比較(表3)を示す。

指導対象学生として、学生により個人差はあるがほとんどの領域実習を経験した4年生前期の学生を対象とした指導者は18名(46.2%)、領域実習が始まる3年生後期の学生を指導対象とした実習指導者は21名(53.4%)を比較したが、評価項目の平均値に有意な差はみられなかった。

実習指導者の役職では、臨地実習指導者が14名(36.0%)、実習指導係看護師が25名(64.0%)で比較すると「1. 学生に実習をすすめる上での情報を提供していますか?」( $p < 0.01$ )、「36. 担当指導教員と良い人間関係を保っていますか?」( $p < 0.05$ )で、有意に臨地実習指導者の平均値が高かった。

## 3) 実習指導に対する思い

実習指導者と看護学教員の実習指導に対する自由記述内容についてカテゴリーに分類した結果(表4)を示す。

「学びの共有の場」「看護技術」「接遇」などの『指導に対する要望』や『指導者と教員との関係性』、「指導者の思い」「指導方法」「指導に対する反応」などの『学生への対応に対する思い』、『学生の様子』が記述されていた。

## IV 考察

### 1) 実習指導者と看護学教員の比較

実習指導者と看護学教員の要素別の平均値を比較すると、実習指導者が看護学教員よりも「実践的な指導」「学生への理解」が高かった。平均値が実習指導者よりも看護学教員が高かった要素は、「学習意欲への刺激」「理論的な指導」であった。学生を調査対象とした日本語版ECTBを用いた先行研究<sup>5)</sup>では、実習指導者が看護学教員よりも「実践的な指導」が高く、「学習意欲への刺激」「理論的な指導」では看護学教員の平均値が高い結果となっており今回の調査と一致している。このことは実習指導において実習指導者と看護学教員が実施していると自己評価する役割は、学生が実習指導に求める役割と一致していると考えられる。

特に「実践的な指導」の実習指導評価項目すべてにおいて実習指導者の平均値が高かったことは、学

日本語版ECTBによる実習指導役割の検討

表4 実習指導者と看護学教員の実習指導に対する自由記述 n=21

指導に対する要望	学びの共有の場	最終カンファレンスは学生主体で学びの討論ができる場であれば良い それぞれの学生がしっかり勉強してきているのでメンバー間で共有すればもっと向上する
	看護技術	見学が多いので、経験までさせるなら早い段階から行った方がいいと思うが、学生がついてこれるのか不安を感じる 目標の方向性や細かい計画の修正は実習中に指導できるが、基本的な学習は学校で実習をしてほしい 基本的な看護技術は個人差が大きい。学内演習での達成度がわかれば、指導がしやすいのかもしれない 技術は学内でもっと練習してきてほしい
	接遇	実習に来る前に社会人としての態度・心構え等を教えてきてほしい 実習に取り組む前に事前学習や言葉づかひや態度などの接遇面をもう少しの方がよい
指導者との関係性		先生方の協力を得たい 教員と指導の方向性など確認が出来ていい 教員との調整・相談を今後も密にしていく必要がある
学生への対応に対する思い	指導者の思い	現場の状況としてゆっくりと学生に対応するのが困難な時が多く、腹立たしい 学生指導以外のスタッフに関わる場合、学生もとまどいを感じているだろうと実感する
	指導方法	時間がなく、しっかり関わってあげたいと思うがもどかしさを感じる ある程度答えを伝える事が多く、助言して指導をしている事が本当にいいのか疑問 学生の性格や特徴など実習前に情報があれば指導方法に活かせるのではないかと思う 何をもって目標が達成できたか評価できるのかその都度学生にかえている 学生の誠意を待つことにしているが反応がなければ空しい
	指導に対する反応	アドバイスや指導を行ってもそれに応じた学習や行動をしてくれない(2) 思うことと違うことが返ってくるため、どう伝えればいいのか悩むことがある 初めてのケア見学する際、自ら時間調整せずスタッフから声をかけるよう言われることが多々ある 「学生」という立場を利用していろいろNsに疑問をぶつけてほしい
学生の様子		患者とのコミュニケーションは主体的にとれている 学生の元気が患者にも伝わる。学生の笑顔と優しさが患者にも伝わる 個性のある実習をしている



生が臨地で看護の経験を積み重ねるためには、患者の病態、治療、症状やその変化についての根拠を知っている指導者が実践をおこなうことが重要で、患者の看護に責任をもつ指導者の役割は大きい<sup>5)</sup>ことから、実習指導者は役割として重要であると認識していることがわかる。

「学習意欲への刺激」「理論的な指導」では、看護学教員よりも実習指導者の平均値が低かった。中でも「27. 学生が新しい体験ができるような機会をつくっていますか?」「43. 学生が学習目標を達成するために、適切な経験ができるように援助していますか?」など実践的な指導場面での評価項目の平均値は看護学教員よりも実習指導者のほうが高かった。このことから実習指導者は学生と実践の場面での多くの時間を費やしているため、要素別平均値が看護学教員よりも低い傾向にあるが、学生の知識の構築やレベルアップにつながる関わりは、看護学教員の役割と考えている傾向が強いことが示唆された。

また学生は経験した場面で自分の見た範囲でしか考えられていないことが多く、その場の状況や患者・家族の思いや背景を理解して看護することが難しい傾向にあるため、患者や指導者から直接言葉で言われない部分の感情や状況に配慮するのは難しい。そのため教員は指導者と連携をはかり発達段階や理論を活用してサポートし学生の学びを深める必要がある<sup>5)</sup>。よって実習指導者と看護学教員の役割意識が明確になっていたと考える。

「学生への理解」の平均値は実習指導者が看護学教員よりも高かった結果は、先行研究結果と一致しなかった<sup>5)</sup>。学生は実習指導者より看護学教員に対する評価が高いことから、学生は実習中に緊張や不安を抱いているため教員に対して精神的な支援を強く求める傾向があり、指導者と連携をとり効果的な実習となるよう学生を支持し調整することが重要であると述べている<sup>5)</sup>。しかし実習指導者は「9. 学生に対し思いやりのある姿勢でかわっていますか?」「22. 学生に対する要求は、学生のレベルで無理ない要求ですか?」「39. 指導の方法は統一していますか?」「40. 学生に対し忍耐強い態度で接していますか?」の4項目が特に高い傾向が見られたことから、実習での学生への精神的なサポートの必要性を認識して指導していることが窺えた。

## 2) 実習指導者間の比較

実習指導者の役職別では、「1. 学生に実習をすすめる上での情報を提供していますか?」(p<0.01)、「36. 担当指導教員と良い人間関係を保っていますか?」(p<0.05)で、有意に実習指導係よりも臨地実習指導者の平均値が高かった。これは、臨地実習指導者は看護学教員と実習前の打合せを行うこと、学生への実習前のオリエンテーション行い、学生カンファレンスに参加していることが影響していると考えられた。実習指導に対する責任感や認識の差が生じていたことが窺えた。

本研究では実習指導者間の看護師経験年数や実習指導経験年数での有意な差はみられなかったが、ECTBを用いた先行研究では職位が高いほどカンファレンスでの建設的な助言や指導、グループの質の向上を目指した指導を心がけ、また看護師経験年数が長いほど看護職の魅力や役割モデルになることを心がけている<sup>6)</sup>ことから実習指導者の経験を考慮に入れながら、実習指導の調整を心がける必要性が示唆された。

## 3) 効果的な実習指導について

実習指導者間で有意に差があった「36. 担当教員と良い人間関係を保っていますか?」や実習指導に対する思いでは実習指導者と看護学教員間の関係性について記述があったことから、実習指導者と看護学教員間では協力しながら実習指導を行う必要性を認識していることが窺えた。特に臨地実習指導者は実習施設として看護学教員との窓口として調整を行う立場にあるため、実習指導係との評価に差があったと考えられる。

臨地実習場面では、患者の治療や看護が優先される。その中で学生が自分の存在を肯定的にとらえ、看護を充分学べるように、教員は臨地実習指導者の協力を得て、教育環境を整える調整力を養っていく責任があり<sup>4)</sup>、教員・臨地実習指導者は学生に対して受容的な関わりを持ち、統一した指導を行うことや個々の学生が理解できるレベルに合わせて学生自身の学習目的を示すことのいずれも欠かせない<sup>7)</sup>とされているが、実習指導における実習指導者と大学教員との実習に関する調整行動の認識にはずれが生じている<sup>8)</sup>。

また学生が経験する教員・臨地実習指導者からの否定的な関わりの中に「臨地実習指導者-教育者間の連携不足」があること<sup>9)</sup>や、学生は実習におけ



る学生支援の方法として教員には「情緒的な支援」、看護師には「意欲向上への支援」を求めている<sup>10)</sup>ことから、看護学教員は学生の精神面でのサポートに重点を置き、実習指導者との連携を深めていく必要性が示唆された。

## V 本研究の課題と今後の課題

本研究は実習指導者と看護学教員の実習指導評価について、日本語版ECTBを用いて調査したが、実習指導者と看護学部教員間の対象者数に差があったこと、1施設での実習指導評価であるため一般化は難しい。また実習指導側である実習指導者と看護学教員のみを対象としており、指導者側の自己評価と学生側の他者評価を比較できていないことから、学生を中心とした指導の在り方への検討には課題が残る。

## VI 結論

- 1) 日本語版ECTBを用いた成人看護学実習の実習評価では、実習指導者と看護学教員の要素別の平均値を比較すると、実習指導者では「実践的な指導」「学生への理解」が看護学教員よりも高く、「学習意欲への刺激」「実践的な指導」は看護学教員が高かった。
- 2) 成人看護学実習指導における実習指導者と看護学教員の役割は、日本語版ECTBからは日ごろの指導の内容が反映されており、明確に役割の意識がされていることがわかった。
- 3) 実習指導者間の指導評価からは、役職別に「学生に実習をすすめる上での情報提供をしているか」「担当指導教員と良い人間関係を保っているか」の2項目で、臨地実習指導者が実習指導者よりも有意に高かった。
- 4) 実習指導者間の指導評価からは、看護師経験年数や実習指導経験年数、実習指導対象学生の違いでは有意差はみられなかった。
- 5) 効果的な実習を行うためには、実習指導者と看護学教員の連携が必要であることが示唆された。

## 謝辞

本研究の実施にあたり、お忙しい中、ご協力くだ

さいました実習指導者、看護学部教員の皆様に心より感謝申し上げます。

本研究は、平成24年度千里金蘭大学看護学部特別研究Aの助成を受けた研究の一部である。

## 引用文献

- 1) 文部科学省, 臨床実習指導体制と新卒者の支援 [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401c.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401c.htm)
- 2) Lani Zimmerman & Joan Westfall: The Development and Validation of a Scale Measuring Effective Clinical Teaching Behaviors, *Journal of Nursing Education*, 27(6), 274-277(1988)
- 3) 中西啓子ほか: Effective Clinical Teaching Behavior (ECTB) 評価スケールを用いた看護学実習指導の分析-第1報-, 川崎医療短期大学紀要, 22, 19-24(2002)
- 4) 影本妙子, 中西啓子ほか: Effective Clinical Teaching Behavior (ECTB) 評価スケールを用いた看護学実習指導の分析-第2報-, 川崎医療短期大学紀要, 24, 19-24(2004)
- 5) 藤堂由里ほか: 学生による成人看護学慢性期・終末期の実習指導評価, 川崎医療短期大学紀要, 31, 33-38(2011)
- 6) 舟越和代ほか: 臨地実習における実習指導者の指導に関する意識, 香川県立医療短期大学紀要, 5, 59-68(2003)
- 7) 富澤理恵ほか: 臨地実習を通じた看護学生の学びの評価とA病院における実習過程評価, 千里金蘭大学紀要, 9(43), 57-65(2012)
- 8) 小林紀明ほか: 臨地実習指導における実習指導者と大学教員との調整の現状, 日本看護研究学会雑誌, 36(3), 186(2013)
- 9) 山田知子ほか: 看護学生の認知する臨地実習での効果的・非効果的な指導者の関わり, 生命健康化学研究所紀要, 7, 13-23(2010)
- 10) 藤本裕二ほか: 看護学生が臨地実習において教員および看護師に求める資質と能力, 保健学研究, 23(1), 9-16(2011)

